

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 下水道課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	公共下水道事業(No.42)	
予算等事業名	公共下水道整備事業			
目的	公共下水道整備事業は計画的な整備を実施、公共用水域の水質改善を図ります。下水道運営経費は下水道運営審議会を開催し、適正な使用料収入確保のため検討、また上下水道料金一括納付業務委託を行う事で、確実な下水道使用料の徴収を図ります。下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施するとともに、流域下水道関連自治体として、下水処理場の維持管理事業における本町分を負担します。流域下水道事業は酒匂川流域下水道関連自治体として建設事業における本町分を負担します。			
内容	・汚水枝線の整備			
根拠法令・条例等	都市計画法、下水道法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		コスト削減に取組み整備を実施しているが、整備に係る物価の上昇が続いており、コスト削減が困難な状況になってきている。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		当該年度に整備完了した地区においては、翌年度に供用できるよう効率の良い整備を実施し、公共下水道の効果を早期に発揮できるよう行なっている。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	公共下水道事業計画に基づき区域内の整備を着実に進めている。	

総合評価

実績	公共下水道事業計画に基づき区域内の整備を着実に進めている。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	下水道整備面積・接続率			
中期(29年度)目標値	390.8ha			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	386.1ha	390.8ha		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		227,440	222,771	222,343	204,675		
財源内訳	一般財源	3,576	73	0	0		
	国庫支出金	105,000	105,000	95,500	95,500		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	118,864	117,698	126,843	109,175		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民生活における基盤整備の一部であり、公共水域の水質改善を図るため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 公共下水道の整備主体は地方公共団体のため、町が主体となる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 公共下水道の整備により、各家庭等への普及率が向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 工事発注においては、コスト低減等の工夫を図っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 事業計画区域において、整備目標に向け効率良く事業推進が図られている。整備に係る適正な財源確保に努め、更に新たな低コスト等の手法導入を模索し、早期整備完成を目指し、公共水域の改善につなげる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 下水道課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	公共下水道事業(No.42)	
予算等事業名	下水道運営経費			
目的	公共下水道整備事業は計画的な整備を実施、公共用水域の水質改善を図ります。下水道運営経費は下水道運営審議会を開催し、適正な使用料収入確保のため検討、また上下水道料金一括納付業務委託を行う事で、確実な下水道使用料の徴収を図ります。下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施するとともに、流域下水道関連自治体として、下水処理場の維持管理事業における本町分を負担します。流域下水道事業は酒匂川流域下水道関連自治体として建設事業における本町分を負担します。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道運営審議会 ・上下水道料金一括納付業務委託 ・企業会計の導入に向けた検討 			
根拠法令・条例等	都市計画法、下水道法、二宮町下水道条例、同施行規則等			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		下水道使用料徴収に関する委託料の接続数の増分に伴う増、使用料収入増に伴い消費税・地方消費税(公課費)の増などが見込まれるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		下水道の普及啓発をすすめ、接続率の向上や使用料収入の増を図るとともに、県内市町村と情報共有する機会を活用して、効果的な事業運営に努める。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
【説明】		
下水道使用料などの適正な収入確保のため、普及啓発による接続率向上を図るなど、下水道事業の安定した健全運営の持続に向けた事業を継続する。		

総合評価

実績	下水道使用料などの適正な収入確保のため、普及啓発による接続率向上を図るなど、下水道事業の安定した健全運営の持続に向けた事業をおこなっている。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	下水道整備面積・接続率			
中期(29年度)目標値	接続率75.5%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	75.0%	75.9%		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		17,807	17,454	23,980	23,351		
財源内訳	一般財源	2,255	1,197	3,018	1,701		
	国庫支出金			0	0		
	県支出金			0	0		
	その他	15,552	16,257	20,962	21,650		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 下水道事業の運営に必要な経費となっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 公共下水道の運営主体が町となっているため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 下水道事業の運営に支障をきたさないよう適正に執行されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要な経費について適正かつ効果的に執行されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 下水道使用料一括徴収事務委託料のようにスケールメリットが図られるなど必要経費が適正かつ効果的に執行された。今後も関連自治体と連携し効果的に推進し、あわせ接続数増に結び付くよう啓発活動に努める。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 下水道課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	公共下水道事業(No.42)
予算等事業名	下水道施設管理経費		
目的	公共下水道整備事業は計画的な整備を実施、公共用水域の水質改善を図ります。下水道運営経費は下水道運営審議会を開催し、適正な使用料収入確保のため検討、また上下水道料金一括納付業務委託を行う事で、確実な下水道使用料の徴収を図ります。下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施するとともに、流域下水道関連自治体として、下水処理場の維持管理事業における本町分を負担します。流域下水道事業は酒匂川流域下水道関連自治体として建設事業における本町分を負担します。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設維持(光熱水費・水質検査・マンホールポンプ保守等) ・下水道台帳整備 ・既設管渠調査委託検討 ・宅内マス設置・管渠等維持工事 ・酒匂川流域下水道維持管理負担金 		
根拠法令・条例等	都市計画法、下水道法		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	整備拡大をするとともに下水道施設が増え、老朽化対策も実施するうえでは、維持管理に対する負担も増えていく。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	維持管理における新技術の導入や、ストックマネジメント計画等の作成により事業の効率化は検討できる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 既存の下水道施設は老朽化等による目立った損傷がないため、最小限の経費で適切な維持管理を行っている。	

総合評価

実績	既存の下水道施設は老朽化等による目立った損傷がないため、最小限の経費で適切な維持管理を行っている。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度

下水道施設の維持管理においては、施設の老朽度や損傷の発生に伴い実施するものであり、目標値の設定は困難である。また、下水道台帳については整備済み箇所を台帳に毎年反映することとなる。

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		112,862	111,697	118,570	116,714		
財源内訳	一般財源	0	0	0	0		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	112,862	111,697	118,570	116,714		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 下水道施設は広範囲に町の財産として整備され、特殊性があるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町の財産として維持管理を行なう義務がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 整備後の老朽度が浅いため、深刻な問題は生じてない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 施設の老朽化や損傷が少なく、最小限の対応となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 施設の維持管理については、大きな問題が生じる前に対応できているため、良好な状況が維持できている。今後も維持管理に伴う新技術情報等に注視し、適正な管理に努める。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 下水道課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	公共下水道事業(No.42)	
予算等事業名	酒匂川流域下水道事業			
目的	公共下水道整備事業は計画的な整備を実施、公共用水域の水質改善を図ります。下水道運営経費は下水道運営審議会を開催し、適正な使用料収入確保のため検討、また上下水道料金一括納付業務委託を行う事で、確実な下水道使用料の徴収を図ります。下水道施設管理経費は、整備済みの下水道施設の維持管理を実施するとともに、流域下水道関連自治体として、下水処理場の維持管理事業における本町分を負担します。流域下水道事業は酒匂川流域下水道関連自治体として建設事業における本町分を負担します。			
内容	・酒匂川流域下水道建設事業負担金			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	流域下水道施設である下水処理場等の建設事業費について関連市町の負担割合に応じた負担をするものであり、施設の改築更新事業も含めた必要な事業費であるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	流域関連市町と県で構成する協議会において、他市町との連携して効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	酒匂川流域下水道関連自治体として、関連市町相互で汚水の排水量に応じて、適正に負担している。	

総合評価

実績	酒匂川流域下水道関連自治体として、関連市町相互で汚水の排水量に応じて、適正に負担している。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	酒匂川流域下水道関連自治体が流域下水処理場建設事業の応分負担しているため。

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,193	1,193	1,627	813		
財源内訳	一般財源	93	93	27	813		
	国庫支出金			0	0		
	県支出金			0	0		
	その他	1,100	1,100	1,600	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 酒匂川流域下水道関連自治体として流域下水処理場建設事業における応分の負担となっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 酒匂川流域下水道関連自治体として本町の応分の負担をするため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 流域下水道関連自治体全体で事業にあたり、スケールメリットがでている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 流域関連自治体全体でのスケールメリットを活かし応分の負担となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 酒匂川流域下水道関連自治体として応分の負担となっている。 今後も、県、関連市町、下水道公社などと連携し、効果的な時機、効率的な計画による事業推進を図る。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	